

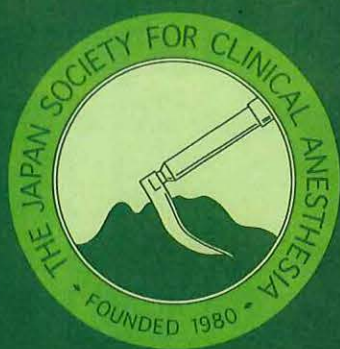
# JJSCA

THE JOURNAL OF JAPAN SOCIETY FOR CLINICAL ANESTHESIA

ISSN 0285-4945  
昭和58年6月23日 第4種学術刊行物認可  
平成27年10月1日発行(年7回1,3,5,7,9,10,11月)

Vol.35  
No.6  
2015

## 日本臨床麻酔学会誌



### 日本臨床麻酔学会第35回大会抄録号

麻酔科医の新時代へ

—DPC時代における麻酔科医の役割を考える—

2015年10月21日(水)～23日(金) 横浜

会場：パシフィコ横浜

- 総会運営・記事
- 演題日程
- 大会抄録
  - 会長講演
  - 特別講演
  - 海外招待講演
  - 招待講演
  - 招請講演
  - 教育講演
  - 特別企画
  - 学会各賞授与式・講演
  - シンポジウム
  - スポンサードシンポジウム
  - ランチョンセミナー
  - イブニングセミナー
  - 一般演題

The 35th Annual Meeting  
THE JAPAN SOCIETY  
FOR CLINICAL ANESTHESIA

**2015**

## 日本臨床麻酔学会

第35回大会

### 抄 録

会 長：鈴木 利保

会 期：平成27年10月21日(水), 22日(木), 23日(金)

開催地：横浜市

会 場：パシフィコ横浜

TEL：045-221-2155

## P2-33-1

### 医学部臨床実習におけるシミュレーション教育の導入経験

岩手医科大学医学部医学教育学講座・麻酔学講座<sup>1</sup>，岩手医科大学医学部麻酔学講座<sup>2</sup>  
相澤 純<sup>1</sup>，大畑光彦<sup>2</sup>，小林隆史<sup>2</sup>，熊谷 基<sup>2</sup>，鈴木健二<sup>2</sup>

【はじめに】当科では昨年度から医学部5年生に対する臨床実習において、高機能シミュレータを用いた実習を行っている。実習は3～4名の学生が1週間ごとに交代で行っている。以前は初日に模擬症例を用いたディスカッションによって麻酔の知識を整理し、最終日に実際に見学した症例をもとにしたディスカッションによって評価を行っていた。しかし、それでは臨床実習なのに知識しか評価していないという問題があった。そこで実際に麻酔に関連する手技をトレーニングし、それを評価することを目的とした実習の再設計を行った。【方法】学生は初日と最終日にシミュレーションセンターにおいて、シミュレータに対して麻酔の導入と維持を行う。初日は模擬症例を提示し、それに対する麻酔計画をグループで作成し、実際にその計画を行う。問題点を見つけ、修正しながら同時に「薬剤の準備と投与」「気管挿管の準備と実施」「術中のバイタルサインの変動に対する対応」を学ぶ。その後、臨床現場の見学を通して手術室麻酔とペインクリニックについて学習し、最終日に一人ずつシミュレータに対して麻酔の導入や維持を行って、それを学生が相互に評価しあう。学生のレベルに応じて課題の難易度を調整し、落ちこぼれや吹きこぼれを予防している。【結果と考察】学生の感想は、アンケート上は概ね良好であった。問題点として、時間的な制約から麻酔終了時や麻酔後の管理についての学習ができていない点と、初日の麻酔に関する知識のバラつきに対する対応が不足している点が挙げられていた。麻酔終了時や麻酔終了後の管理についての実習は、当面希望者に対して時間外に行うようにしながら、将来的に実習期間が延長されたら実施することとする。初日の知識のバラつきについては、反転学習の導入を計画している。